日本建築学会大会学術講演梗概集
（東　海） 2003年９月

劇場の周辺環境と鑑賞前後の行動との関係

正会員　○　遠山　直子＊1
同　　添田　昌志＊2
同　　大野　隆造＊3

鑑賞前後　劇場　行動
制約要因　誘発要因

1．研究の背景及び目的

近年、文化施設が整備され、様々な劇場で鑑賞を楽しむことができるようになった。それとともに、劇場周辺での鑑賞前後の過ごし方も多様になっており、劇場内の環境だけでなく、鑑賞前後の食事や友人との会話等、鑑賞前後の時間も楽しめるような劇場周辺の環境が求められていると考えられる。本研究では、鑑賞前後の過ごし方への要求および行動と、劇場の周辺環境との関係を明らかにし、鑑賞者の求める鑑賞環境をデザインするための方向性を示すことを目的とする。

2．　研究の方法

調査項目や調査対象劇場を決定する上で予備調査を行い、劇場の立地状況等を考慮して付属施設を持つ都心の銀座、渋谷、郊外の所沢の３劇場を選定し（表１）、２段階のアンケート調査を行った（図１）。まず各劇場利用者に対し、公演当日の鑑賞前後の行動や劇場周辺の環境に対する評価についての調査（第１次調査）を行い（図２）、次に追加調査の同意を得た回答者に鑑賞日の行動の選択理由、鑑賞後の過ごし方への要求についての調査（第２次調査）を行った（図３）。

3．鑑賞前後の行動と環境に対する評価概要

3-1．鑑賞前後の行動の分布

図４は、劇場周辺での鑑賞前後の行動の分布を劇場からの距離で表したものである。行動の種類は飲食等で施設に留まる「滞留」と買物や公園の散策等の「回遊」の２種類とする。鑑賞前は３箇所とも劇場付近や劇場付属施設に滞留が集中している。鑑賞後は銀座では劇場付近を離れ劇場周辺の街全体で、渋谷では劇場施設または街全体で所沢では別の街へ移動しての行動がとられている。これは鑑賞前は開演直前にすぐ劇場に向かえる場所にいたい、鑑賞後は街で余韻を楽しみたいという心理が働いているといえる。これ以降はより多様な行動のみられた鑑賞後に着目して分析する。

3-2．劇場の立地による鑑賞後の行動の差異

鑑賞後の行動を図５のように立ち寄ったエリアに着目して、「劇場内型」、「劇場周辺型」、「大移動型」、「直帰型」の４種類に分類し、これらを行動型と定義する。銀座では約７割が劇場周辺型なのに対し、渋谷では劇場周辺型が約４割しかみられず、劇場内型、大移動型、直帰型が２割程度づつみられる。同じ都心でも、銀座と渋谷では行動型の傾向に大きな違いがあることが分かる。所沢では劇場周辺型が少なく、大移動型と直帰型が４割程度づつもいることが大きな特徴である。

3-3．劇場の周辺環境に対する評価

図６は鑑賞前後を楽しむ場所として劇場周辺の環境

表１　第１次調査の概要

調査劇場名	所在地	座席数	劇場付属施設	演目	公演日時*	配布数
銀座Tホール	中央区銀座1丁目	774席	レストラン、花屋、映画館、ホテル等	演劇	10月 5日（土）13:00～	500
					10月 6日（日）13:00～	500
渋谷Cホール	渋谷区道玄坂2丁目	747席	喫茶店、レストラン、映画館、ギャラリー、本屋、百貨店等	演劇	10月12日（土）14:00～	600
					10月19日（土）14:00～	600
所沢Mホール	所沢市並木1丁目	804席	喫茶店、レストラン、展示室等。公園が隣接	クラシックコンサート	10月13日（日）15:00～	450

※調査対象とする公演は、前後の自由時間が多い休日の昼公演とした。

第１次調査アンケート項目	第２次調査アンケート項目
①回答者の属性・来館回数・来館方法 ②鑑賞後の余韻の楽しみ方(場所や方法,同伴者の有無等) ③鑑賞を楽しむ場所としての劇場周辺の環境に対する意見・要望等 ④鑑賞日の行動軌跡(立ち寄った場所,通った道)を地図上にプロット	①第1次調査での行動場所の選択理由,制約・誘発要因 ②習慣となっている鑑賞前後の行動 ③鑑賞日と普段の日の要求や行動の違い ④鑑賞後の余韻の楽しみ方への要求(場所や方法,同伴者の有無等)

図１　アンケート項目の概要

年代	～20代	30代	40代	50代	60代～	不明	総数
銀座	10	27	21	7	15	2	82
渋谷	23	40	14	6	6	0	89
所沢	2	5	7	19	39	0	72

図２　第１次調査回答者の概要

年代	～20代	30代	40代	50代	60代～	不明	総数
銀座	3	6	7	6	10	1	33
渋谷	7	13	5	3	3	0	31
所沢	0	3	2	8	28	0	41

図３　第２次調査回答者の概要

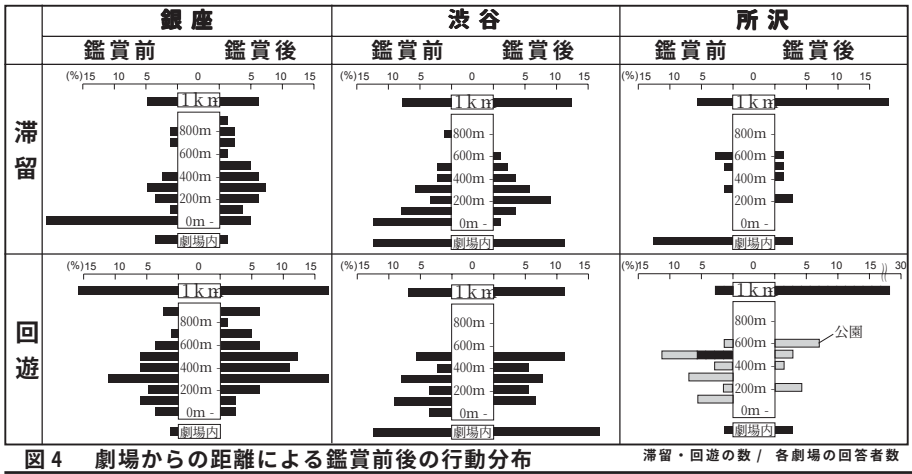

図４　劇場からの距離による鑑賞前後の行動分布

滞留・回遊の数／各劇場の回答者数

劇場内型	劇場付属施設での滞留・回遊
劇場周辺型	劇場周辺の街（劇場から1km以内でかつ徒歩による行動範囲）での滞留・回遊
大移動型	車・公共交通機関等で他の場所に移動しての立ち寄り、または劇場から1km以上離れた場所での滞留・回遊
直帰型	どこへも寄らず家へ帰る

※1人が複数の行動をとった場合は該当する行動型すべてに含める。

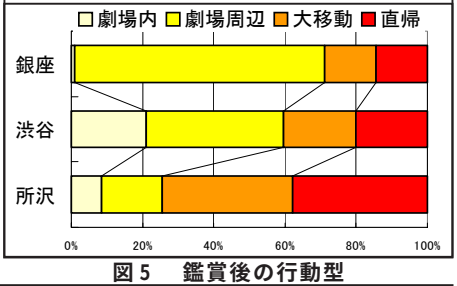

図５　鑑賞後の行動型

The relationship between the environment around a theater and the audience's behavior before and after performance

TOYAMA Naoko ,SOEDA Masashi, OHNO Ryuzo

の自由記述による評価を言及された環境の要素別に「道」、「周辺施設」、「劇場施設」、「街」の４項目に分け、各項目に対する全コメント数の総人数に対する割合を示したものである。銀座では全項目に対して良い評価の方が多く「店の選択肢が多い」こと等の街の環境が鑑賞の楽しみを増加させている記述が多い。一方渋谷では道と街についての評価が特に悪く、「狭くて人が多くて歩きにくい」、「せっかくの余韻も消えてしまう」といった記述が多く、街の環境が鑑賞の楽しみに直接悪い影響を与えていることが分かる。逆に劇場付属施設についての記述からは、周辺環境への評価が悪いことが付属施設の利用へとつながっていることが分かる。所沢では全項目に対して評価の良し悪しが大きく分かれた。公園や並木道などを「余韻を楽しむ良い環境」と評価している人は多い一方、「静かな雰囲気が重苦しくてつまらない」としている記述も同数程度みられ、自然が多く店の少ない環境を鑑賞を楽しむ環境として必ずしも良しとしていないことが分かる。

3 - 4．環境に対する評価と鑑賞後の行動型との関係

表２は、周辺環境に対する評価と行動型別のコメント数の割合との関係を表したものである。劇場内型は劇場施設に対して、劇場周辺型は周辺施設や街に対して良い評価が多く、逆に大移動型は街や周辺施設に対して悪い評価が多い。直帰型は道に対して関心が高く、帰り道で余韻を楽しむために歩く道の雰囲気を重視している。重視する周辺環境の要素や評価は劇場の場所や人により様々だが、行動型が同じであればそれらは一致する傾向があり、周辺環境の捉え方が行動型を決める要因の１つになっていることが分かる。

4．鑑賞の要求と行動に関わる制約・誘発要因

９割以上の回答者は何らかのかたちで余韻を楽しむことを望んでいるが、その場所や方法等の要求がそのまま行動となる場合だけでなく図７のような制約や誘発要因が存在する場合には、要求は別の行動となって現れる。それらは街の雰囲気等環境による物理的要因と、用事がある等個人がそれぞれ持つ個人的要因とに分類できる。これを場所ごとにみてみると（図８）、銀座は要求と行動が一致している場合が多く、制約要因では個人的要因によるものが大きい。渋谷では物理的要因が強い制約要因となり、劇場周辺型という要求が劇場内型や大移動型へと変化する場合が多い。所沢では直帰型の要求が多く行動との一致も多いが、劇場周辺型の要求は物理的要因の制約で行動と一致せず、大移動型や直帰型へと変化している。要求が行動と一致するか否かには劇場の周辺環境による影響が強く、要求がかなわない場合は場所や方法を変えて別の行動で果たそうとする傾向がうかがえる。

5．まとめ

本研究により、鑑賞者は鑑賞後の余韻を保持し高めることのできる鑑賞環境を求めており、劇場単体のデザインだけでなく、鑑賞前後の行動に対する制約および誘発の両要因を考慮した鑑賞環境をデザインする必要があることが示された。

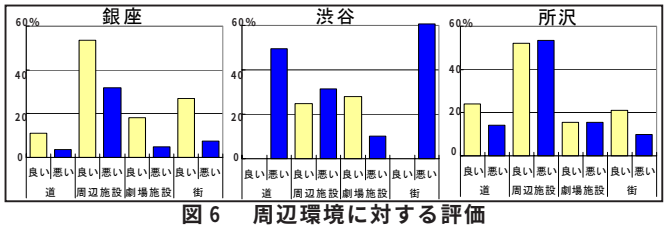

図６　周辺環境に対する評価

表２　行動型と周辺環境に対する評価の関係

	環境要素	道		周辺施設		劇場施設		街	
	行動型(人)	良い	悪い	良い	悪い	良い	悪い	良い	悪い
銀座	劇場内(1)	0%	0%	0%	0%	100%	0%	0%	0%
	劇場周辺(68)	10%	5%	53%	33%	16%	7%	31%	10%
	大移動(14)	14%	0%	71%	43%	14%	0%	21%	21%
	直帰(14)	13%	0%	47%	33%	27%	0%	27%	0%
渋谷	劇場内(22)	0%	50%	20%	40%	50%	15%	0%	60%
	劇場周辺(40)	0%	44%	44%	39%	17%	17%	0%	56%
	大移動(21)	0%	50%	15%	45%	30%	10%	0%	90%
	直帰(21)	0%	57%	14%	19%	29%	5%	0%	57%
所沢	劇場内(7)	0%	0%	100%	100%	25%	0%	25%	25%
	劇場周辺(14)	14%	7%	64%	43%	7%	21%	29%	7%
	大移動(30)	19%	11%	48%	67%	19%	19%	19%	7%
	直帰(31)	31%	19%	47%	47%	13%	13%	19%	13%

※表内の数字は各行動型のコメント数を各行動型の総人数で割った割合。図６で示したグラフの 20%以上の項目について，上位２位の行動型に着色。

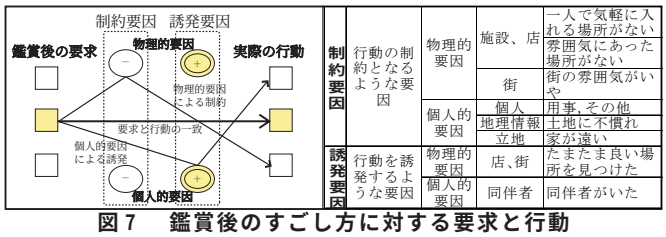

図７　鑑賞後のすごし方に対する要求と行動

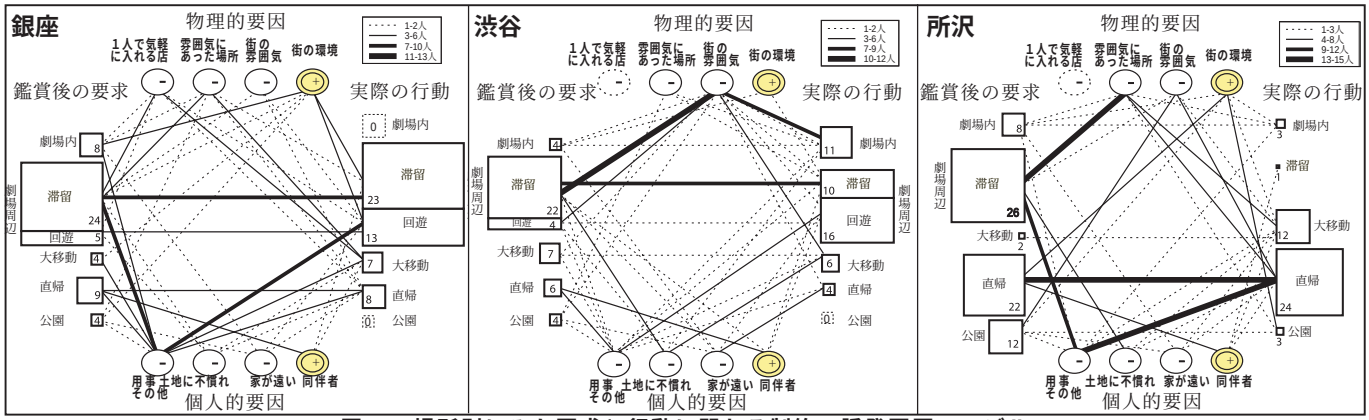

図８　場所別にみた要求と行動に関わる制約・誘発要因のモデル

＊１ 株式会社博展・工修
＊２ 東京工業大学大学院総合理工学研究科　助手・博士（工学）
＊３ 東京工業大学大学院総合理工学研究科　教授・工博

HAKUTEN,Inc ,M.Eng.
Research Associate, Tokyo Institute of Technology, Dr. Eng.
Professor, Tokyo Institute of Technology, Dr. Eng.